

## 荘銀グループ 展望台

### カード革命

# 一体型カードの現状と将来性



荘内銀行個人業務部  
長谷川浩二

金融機関の発行するキャッシュカードが、「カード革命」と言われる嵐の中で大きく変容を遂げようとしている。そのしくみ・本質と今後の方向性について探ってみる。

金融機関とクレジットカード会社が提携し、キャッシュカードとクレジットカードを一体化した「一体型カード」が都市銀行を中心として今春から続々と登場している。預金の入出金、国内、海外でのショッピング、デビットカード（注1）として加盟店でのキャッシュレスショッピングまで、一枚で三役をこなす。住友銀行の「住友ワンダーカード」、三和銀行の「オール・ワン」、第一勧業銀行の「ハートのスパークカード」、富士銀行の「富士パークカード」がそれにあたる。しかし、

地方銀行グループは以前から共同で、クレジット機能を一体化させた「バンクカード」を発行してきた。このバンクカードには全国地方銀行六十四行が加入しているが、必ずしも全行の足並みがそろっているわけではない。より地元根ざした小回りのきくサービスを目指すため、独自で一体型カードを発行する地方銀行も出てきた。その口火を切ったのが荘内銀行である。平成十一年九月に銀行として初めて流通系の「クレディセゾン」との提携一体型カードを発行した。主な利便性

の特徴としては、全国の都市銀行・地方銀行（提携金融機関という）や郵便局でも現金の引き出しが可能な広域ネットワークを有している、荘内銀行との取引の都合いによってATM時間外手数料のキャッシュバックが利用できる、荘内銀行の取り扱う各種個人ローン金利優遇がうけられる、デビットショッピングも利用可能、不意な出費に備えるための貸し越し機能（カードローン）もセットできる、ショッピングカードとしての割引特典や利用頻度をポイント化した選べる商品還元の特典が受けられる、VISAもついていることから海外でも利用可能、年会費は初年度のほか二年度以降も無料などであるが、その他流通系ならではの数え切れないサービスが満載されている。更にカードフェ

イスは荘内銀行の人気アニメキャラクター「タマ&フレンズ」を用い、可愛らしく仕上がったカードデザインとしている。荘内銀行では平成十一年十二月に荘銀ジェーシービー、平成十二年一月には流通系では二番目となるイオンクレジットの発行するジャスコ

カードとの提携一体型カードも発行している。お客様の使い勝手によって「選べる荘内銀行の一体型カード」としてそれぞれのクレジット会社と提携発行したわけだが、個々のカードの利便性を評価していただいた多くのお客様から、荘内銀行のひとつの決済口座の中で一体型カードを複数枚欲しいとのニーズが始め、苦勞のあげく全国で初めてシステム対応を可能とした。

#### 一体型カードとiモード対応携帯電話

一体型カードのキャッシュカード機能部分は、荘内銀行が山形県内で初めてNTTドコモのiモード携帯電話を利用した「モバイルバンキング（注2）」サービスとも密接な関係がある。例えば、ショッピングの際、その場で代金決済を完結したいユーザーが、デビットショッピングを利用する場合、利用の直前に口座残高を確認する場合に威力を発揮する。

#### 相互補完関係による双方メリット

各金融機関がこぞって利便性の高い一体型カードを発行する狙いは、既に取引を頂いて



セゾンカード



JCBカード



ジャスコカード

多くのカードの中には維持費としての年会費が必要なものもあるが、それをカバーしうるサービスもあつておくこともまた大切なことである。

いる顧客口座の活性化によってメイン取引を手堅いものとする狙いと、取引を頂いていない顧客にも幅広く目を向けていただき、新規の取引によって多くの個人顧客の囲い込みを図るリテール（小口金融取引）戦略の一環とする狙いがある。一方、クレジット会社は金融機関のキャッシュカードとの一体化により、携帯率が高まりクレジット利用促進につながる狙いがある。

一体型カードはICカード化への布石

荘内銀行、クレディセゾン共に「一体型カードはIC（集積回路）カード化への布石となる」と読んでいる。偽造などの不正利用対策として、クレジットカードのIC化は必然の流れであるが、インフラへの投資を伴うため、カード会社だけで取り組むのは難しい。一方、銀行もキャッシュカードの不正利用対策にICカードに目を向け始めている。一体型カードにより、カード会社と銀行が共同でICカード・インフラに取り組む素地がで

きる。

ライフステージに適したカードの選択

国際競争力の強化のための「金融の自由化」とはよく耳にする言葉であるが、その本質は、企業側にとっては激烈な競争を強いられ、消費者にとってはこれまで画一的なサービスしか受けられなかったことが多大な「恩恵」として返ってくるのだと私自身は理解している。

また、ここでは各地方銀行の一体型カードサービスの紹介は割愛するが、サービスの横並び感が強い都市銀行に対し地方銀行のカードは地方の特色を生かしたユニークなサービスが満載されているといえる。

これまで紹介した個々のカードは、それぞれ魅力的な機能を満載しているが、ユーザーにとって大事なポイントは、自身のライフステージに照らし合わせベストなカードを一つ選択することである。選択を終えたら徹底的に使いこなし特典をフルに享受することである。

（注1）「デビット」とは会計用語の「即時決済」を意味した一般用語である。デビットカードはショッピングの際に、販売店に設けた専用端末機にキャッシュカードを通して暗証番号を入力するだけで、決済が完結するシステム。キャッシュカードを持っていれば特に金融機関との個別契約を取り交わす必要がなく、デビット加盟店であれば誰でも利用できる。利用代金は自動的に利用者の預金口座から引き落とされ加盟店の預金口座に振り込まれる。利用時間と一日当たりの利用限度額は金融機関によって異なるが、利用者の使用手数料は一切不要。荘内銀行の場合デビットカードの利用時間は平日・土・日・祝日も午後九時までとATMの稼働時間と同じ時間帯で利用可能。一日当たりの利用限度額は百万円まで。カード利用者は通帳で家計簿的な管理ができ、支払いも預金残高の範囲内で使いすぎることもない。現金を数える必要がないため動相違もなく釣り銭のやり取りもないなど加盟店にとってメリットのあるシステムでアメリカニューヨークなどでは日常の決済手段となっている。山形県内の加盟店はまだ百五十店舗程度であるが、要は利用者の慣れの問題であり、今後、現金・クレジットに次ぐ決済手段として普及が予想される。

（注2）「モバイルバンキング」サービスとはNTTドコモのiモード携帯電話を利用したサービスで、銀行の営業時間終了後も残高照会や振込・振替、定期預金作成等ができるサービス。荘内銀行の場合、月額二十円（新規会員は平成十二年度は無料）の会費でインターネット・Eメールができることに加え、右記のサービスが受けられる。残高照会だけでなく無料のほかに、振込手数料は窓口扱いより一件につき原則百五十円の割引、平成十二年度は更に割引特典を付与）とお得になっている。更に、荘内銀行の金利情報、店舗・ATMのご案内、新商品などの情報もiモード携帯電話の画面から見る事ができる。